

昭和女子大学とSDGs連携協定を締結!

6月25日、美波町は、昭和女子大学(理事長・総長 坂東眞理子、東京都世田谷区)と「SDGs調査研究・教育プロジェクト」に関する協定を締結し、今夏、同大学が国内4地域で実施するSDGsフィールドワークを受け入れることとなりました。

これは、昭和女子大学の学生が地元の中高生と一緒に、SDGs(持続可能な開発目標)の考え方を通じて地域の魅力やより暮らしやすい未来の地域の形を模索していくというもの。2020年2月には、都内同大学にて4地域の合同シンポジウムの開催も計画されており、美波町ではフィールドワークに参加した中高生の派遣も予定しています。

これらの活動に先立ち、7月6日には、2者間の連携協定締結式および記者発表、同大学グローバルビジネス学部八代尚宏学部長、高木俊雄准教授、そして内閣府より地方創生推進事務局次長森山茂樹氏をお迎えしてSDGs講演会を開催しました。



(写真左、右上) 7月6日のSDGs講演会の様子。



(写真右下) 同日午後には昭和女子大学を代表して八代学部長が出席し、影治町長と連携協定の締結式が行われました。



■ 意外に身近。誰でも簡単に意識できるSDGs

SDGs(エスディーゼズ)は日本語に訳すと「持続可能な開発目標」。

これはすべての人にとってよりよい、より持続可能な未来を築いていこうと国連が提唱するもので、達成すべきものとして世界共通の具体的な17の目標が設定されています。

もちろん、日本でも政府はじめ多くの公共機関、教育機関、自治体や企業が賛同し、取り組みを進めています。

SDGsは世界が直面している様々な問題を解決していくために作られましたが、大きな17の目標には、「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」といった身近に感じられる項目も。

日頃から「世界を良くするため」を意識して生活することはなかなか難しいかもしれませんが、例えば「海や陸の豊かさを守るために、ゴミのポイ捨ては絶対しない!」と考えれば、簡単に取り組めるのではないのでしょうか。

日本をはじめ、先進国では今後いっそうの少子高齢化、人口減少が進む一方で、世界の人口は爆発的に増加する、非常に困難な時代を迎えるといわれています。

そんな厳しい時代を子ども達に残さないように。子どもたちと一緒に考え、小さな問題から気負わず実践できるのがSDGsなのです。

※～[シリーズ]映画にも描かれた地方創生、「美波町モデル」とはVol.4～は次号の掲載となります。

制作：美波ふるさと創造広報チーム

